

山形大学を語る

このコーナーでは、教職員が出張などの際に、外部の方に対して山形大学をどのように説明したかを紹介していきます。各自が自分の言葉で山形大学ブランドについて語る機会を持つことで、山形大学の強みは何かを考え、改善し続けることを目指します。

伊藤 浩志 教授 (高分子工学)

私の専門は、高分子工学ですが、山形大学の高分子系は工学部の前身となる米沢高等工業学校時代からの100年以上の長い歴史があります。多くの諸先輩方の実績により、「山形大学といえば、高分子、有機材料」と言っただけのほど認知度が高いです。幸いなことに、この分野では、日本一とも言えるような環境で教育、研究ができています。今後は、さらに成長、発展していかなければならないと考えています。産業界では今、強くて軽い材料が求められています。現在の研究テーマの一つは、飛行機、車、ロボットなどに利用できる強くて軽いプラスチック、複合材料の開発です。参加している研究プロジェクトで開発した車は、新素材を用いて約40%の軽量化に成功しました。

教育の点では、学生達が入学後に一番伸びているということ、就職での強みもデータで現れています。本学ほどの恵まれた研究環境は都会の大学ではあり得ません。豊かな自然の中で、のびのびと研究ができること、さらには国際会議などで研究発表の機会や様々な企業ヘンターシップがあることなど、学生時代にできる多くの



経験が、優秀な学生を育てているのです。そして、卒業生がさらに社会で活躍していくことで、山形大学のブランドカアップにつながっている、そういった好循環ができているのも、山形大学の誇れる点です。